



ServerView Suite

ServerView Operations Manager

補足情報

目次

■	はじめに.....	1
■	対象バージョン.....	1
■	補足情報.....	1
1	インストール要件.....	1
1.1	名前解決の設定.....	1
1.2	JRE のインストール.....	2
1.3	JRE の設定.....	2
1.4	リードオンリーメインコントローラへのインストール.....	3
1.5	Microsoft SQL Server 2000 SP3.....	3
1.6	監視対象サーバの台数.....	3
1.7	ネットワークポートの設定.....	3
1.8	OS 標準添付の PostgreSQL との共存.....	3
1.9	SELINUX.....	3
1.10	httpd サービス.....	3
2	インストール.....	4
2.1	ダウングレード.....	4
2.2	SQL Server の認証方式.....	4
2.3	ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境へのインストール.....	4
3	アンインストール.....	4
3.1	パフォーマンスマネージャのレポート設定.....	4
3.2	アンインストールのキャンセル.....	5
3.3	cron に登録されるジョブ.....	5
4	サーバリストの管理.....	5
4.1	サーバ名に使える文字.....	5
4.2	マネジメントブレードの登録.....	5
4.3	LAN 冗長化を行っている場合の設定.....	5
4.4	サーバリストのエクスポート.....	6
4.5	電源制御実施時の必要パッケージ.....	6
5	アラームモニタ.....	6
5.1	SNMP バージョン.....	6
5.2	サーバ情報.....	6
6	アラーム設定.....	7
6.1	共通設定.....	7
6.2	SMTP AUTH によるメール送信.....	7
6.3	アラームルール名・アクション名.....	7
6.4	プログラム実行.....	7

7	サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー).....	7
7.1	非サポート項目	7
7.2	アーカイブデータの取得・出力.....	7
7.3	電源投入要因／電源切断要因.....	7
7.4	ファン回転率	8
7.5	ASR&R の設定	8
7.6	ASR&R 画面.....	8
8	MIB インテグレータ	8
8.1	ネットワーク機器からのトラップ	8
8.2	トラップの記述形式.....	8
8.3	日本語表記を含む MIB ファイル	9
8.4	MIB ファイルの拡張子	9
8.5	登録した MIB ファイルの削除	9
8.6	登録した MIB ファイルの更新	9
9	パワーモニタ	9
9.1	電力表示対象サーバ	9
9.2	複数サーバの表示	10
10	その他	10
10.1	SVOM がアクセスするネットワークポート.....	10
10.2	サーバ名および IP アドレス変更後の操作	10
10.3	SVOM サービス停止中の注意	11
10.4	関連ファイルの編集.....	11
10.5	JRE のアップデート	11
10.6	Network Node Manager との連携	11
10.7	イベントログのソース名	12
10.8	システムバックアップ	12
10.9	ディレクトリサービスを変更する場合の操作.....	12
10.10	cron に登録されるジョブ	12
10.11	シスログのソース名	13
10.12	snmptrapd の起動.....	13
10.13	追加されるユーザ/グループ	13
11	トラブルシューティング	13
11.1	接続テストが正常とならない	13
11.2	サーバが管理不可能と表示される	15
11.3	HTTP 500 や HTTP 404 のエラーが表示される.....	17
11.4	SVOM の画面読み込みに時間が掛かる。	19
11.5	SVOM から監視対象サーバにログイン出来ない.....	19
11.6	SVOM インストールフォルダ配下のファイル「ServerViewdb_log.LDF」のサイズが非常に大きい... ..	20

■ はじめに

本書は、ServerView Operations Manager V5 に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Operations Manager V5.xx (sv-operations-mgr-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Linux (sv-install-linux-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows (sv-install-windows-jp.pdf)
- ServerView Event Manager (sv-event-mgr-jp.pdf)
- ServerView Inventory Manager (sv-inventory-mgr-jp.pdf)
- ServerView Threshold Manager (sv-threshold-mgr-jp.pdf)
- ServerView Archive Manager (sv-archive-jp.pdf)
- ServerView Performance Manager (sv-performance-jp.pdf)
- Base Configuration Wizard (sv-base-config-wizard-jp.pdf)
- ServerView Online Diagnostics (sv-onldiag-jp.pdf)
- PrimeCollect (sv-primecollect-jp.pdf)
- ServerView でのユーザ管理 (user-mgt-jp.pdf)

※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Operations Manager(以下 SVOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V5.00、V5.01、V5.10、V5.30、V5.50、V5.51

■ 補足情報

1 インストール要件

▶ Windows/Linux 共通

1.1 名前解決の設定

V5.00 以降では、ブラウザからアクセスする際に、SVOM がインストールされたサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)を名前解決できるように設定されている必要があります。DNS サーバの設定や、もしくはクライアント側の hosts ファイルにサーバのホスト名と IP アドレスを追加するなどして、ホスト名を名前解決できるように設定してください。

SVOM をインストールしたサーバにおいても、自分自身のホスト名が名前解決できるように設定されている必要があります。

以下の方法で、名前解決が出来ているか確認してください。

•Windows の場合

`tracert <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス>`

例)

`tracert svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp`

•Linux の場合

`traceroute <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス>`

例)

`traceroute svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp`

1.2 JRE のインストール

SVOM が動作する為には、サーバ側(SVOM をインストールするサーバ)にも、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM を表示する端末)にも、JRE(Java Runtime Environment)をインストールする必要があります。

Windows の場合、それぞれにインストールする JRE は 32bit 版である必要があります。OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。

Linux の場合で SVOM のバージョンが V5.10 以前の場合、それぞれにインストールする JRE は、Windows の場合と同様に OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。SVOM のバージョンが V5.30 以降の場合、OS と同じアーキテクチャ(32bit には 32bit、64bit には 64bit)の JRE をインストールしてください。

尚、JRE のバージョン 7 はサポートしていません。

▶ Windows

1.3 JRE の設定

JRE(Java Runtime Environment)がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れてください。

SVOM V4.92 では、この項目のチェックをはずす必要がありましたが、バージョン V5.00 以降の SVOM ではチェックを入れてください。

この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。

1. コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。
2. 「詳細」タブを選択します。
3. 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。

4. 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。

1.4 リードオンリーメインコントローラへのインストール

リードオンリーメインコントローラ (RODC) への SVOM のインストールは未サポートです。

1.5 Microsoft SQL Server 2000 SP3

SVOM V5.30 以前では、SVOM が使用するデータベースとして、Microsoft SQL Server 2000 及び MSDE がサポートされていますが、SP3 以前がインストールされている環境に、SVOM for Windows をインストールする場合、インストール済みのデータベースエンジンをアップグレードする必要があります。

1.6 監視対象サーバの台数

SVOM が使用するデータベースとして、MSDE 2000 SP4、Microsoft SQL Server 2005 Express および Microsoft SQL Server 2008 Express は、200 台以下のサーバを監視するのに適しています。それ以上の数のサーバを監視する場合、Microsoft SQL Server 2000、または Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2008、Microsoft SQL Server 2008 R2 を使用することを推奨します。

1.7 ネットワークポートの設定

Windows Server 2008 の動的ポート割り当て設定で、開始ポートを変更すると SVOM/Agents が使用するポートと競合し、SVOM、Agents が起動出来なくなる場合があります。

開始ポート設定を変更する場合、SVOM/Agents の使用ポートと競合しない様に注意してください。

▶ Linux

1.8 OS 標準添付の PostgreSQL との共存

SVOM がインストールする Postgresql パッケージは、OS 標準添付の PostgreSQL と共存可能です。

1.9 SELINUX

SELINUX が有効な場合、または無効に設定した後でシステムを再起動していない場合は、SVOM for Linux はインストールできません。

1.10 httpd サービス

V5.00 より前のバージョンの SVOM を Linux システムにインストールする場合、httpd サービス (Apache) が動作している必要がありましたが、V5.00 以降の SVOM では、httpd サービスが動作している必要はありません。

2 インストール

▶ Windows/Linux 共通

2.1 ダウングレード

現在お使いの SVOM を、それよりも古いバージョンにダウングレードする場合、一旦現在インストール済みの SVOM をアンインストールする必要があります。古いバージョンへのダウングレードインストール（上書きインストール）はできません。

▶ Windows

2.2 SQL Server の認証方式

SQL Server のインストール、またはセキュリティパッチ適用で認証方式を設定する場合、認証方式には、Windows 認証を選択してください。SA 認証は選択しないでください。

2.3 ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境へのインストール

Windows のターミナルサービス(TS)、及びリモートデスクトップサービス(RDS)がインストールされている場合、SVOM は以下の方法でインストールしてください。

1. コマンドプロンプトを開きます。

2. 次のように入力します。

`Change user /install`

3. SVS DVD 内の"serverview.EXE"が入っているフォルダに移動します。

`cd <DVDドライブ>:\SVSSoftware\Software\ServerView\Windows\ServerView_S2`

4. "serverview.EXE" を実行して、SVOM をインストールします。

5. インストールが完了したら、次のように入力します。

`Change user /execute`

3 アンインストール

▶ Windows/Linux 共通

3.1 パフォーマンスマネージャのレポート設定

パフォーマンスマネージャのレポートを設定したまま SVOM をアンインストールすると、SVOM - Agents 間に設定の差異が生じます。SVOM をアンインストールする前に、必ずレポートの設定を解除してください。

▶ Windows

3.2 アンインストールのキャンセル

アンインストールを行うときに、途中で処理を中断すると、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

▶ Linux

3.3 cron に登録されるジョブ

SVOM をインストールしたときに、cron に自動追加されるジョブは、アンインストールでは削除されない場合があります。

SVOM のアンインストール後、次のコマンドを実行して手動で削除してください。

- 1 スーパーユーザでログインします。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
# /usr/bin/UninstallServerView.sh  
# rm -f /etc/cron.d/pg_CrontabEntry
```

4 サーバリストの管理

▶ Windows/Linux 共通

4.1 サーバ名に使える文字

サーバを登録する時、「サーバ名」を変更することができます。その場合、サーバ名に日本語や、記号 (" " # & ~ | ¥ + * ? / ; , など) 、空白は使用しないでください。

4.2 マネジメントブレードの登録

マネジメントブレードをサーバリストに登録すると、配下のサーバブレードが監視可能となります。この場合、サーバブレードの IP アドレスはマネジメントブレードから自動的に取得されます。

マネジメントブレードは、サーバブレードに搭載されている LAN ポートを、MAC アドレスの小さい順、かつ、通信可能な順で IP アドレスを認識します。そのため、LAN ポートの状態変化によっては、サーバリスト上の監視 IP アドレスが変動することがあります。

IP アドレスの変動を避けるには、サーバのプロパティのブレードのネットワークアドレス設定でブレードにこのアドレスをいつも使用するにチェックを付け、指定可能なアドレスで監視 IP アドレスを選択して下さい。

4.3 LAN 冗長化を行っている場合の設定

サーバブレードでチーミングなどの LAN 冗長化を行っている場合、マネジメントブレードをサーバリスト

に登録した際に LAN 冗長化を行っているサーバブレードの IP アドレスが 0.0.0.0 と表示される場合があります。この場合、冗長化を行っているサーバブレードは独立したサーバとしてサーバリストに個別に登録してください。

4.4 サーバリストのエクスポート

サーバリストをエクスポートしたファイルは他サーバでもインポートすることが可能です。同じバージョンの SVOM であれば、データベースや OS が違っていてもインポートすることが可能です。

ただし、Linux にインストールされた SVOM へインポートする場合は、Windows (Internet Explorer) で Linux の SVOM へアクセスしてインポートしてください。

エクスポートしたのと同じバージョンの SVOM にのみ、ファイルをインポートすることができます。

▶ Linux

4.5 電源制御実施時の必要パッケージ

V5.30 以前では、サーバリストで右クリックメニューより電源制御を実施する場合、以下のパッケージが必要となります。

`zlib-devel-<Version>.<arch32bit>`

インストールされていない場合は、以下のコマンドを実行してパッケージのインストールを行なってください。

```
# rpm -ivh zlib-devel-<Version>.<arch32bit>.rpm
```

※Intel64 / x86 環境においても上記パッケージが必要となります。

※V5.50 以降では上記パッケージは不要です。

5 アラームモニタ

▶ Windows/Linux 共通

5.1 SNMP バージョン

SVOM は SNMPv1 に準拠したトラップのみをサポートしています。

5.2 サーバ情報

アラームモニタのサーバの情報タブで表示される情報は、サーバリストに登録したサーバの設定情報が表示されます。トラップ情報ではありませんのでご注意ください。

※サーバリストに登録されていないサーバからのトラップの場合、ここで表示されるコミュニティ名は「public」となります。

6 アラーム設定

▶ Windows/Linux 共通

6.1 共通設定

アラーム設定の「共通設定」での設定は、アラームルールとは無関係に動作します。設定によっては同じアラームに対して、イベントログに 2 つのログ書き込みが行われる場合があります。

6.2 SMTP AUTH によるメール送信

メール送信のアクションでは、SMTP AUTH によるメールの送信をサポートしています。

サポートされる認証方式: CRAM MD5 / LOGIN / PLAIN

メール送信時に使用される認証方式は送信先の SMTP サーバが対応している認証方式に応じて自動的に切り替わり、最も安全なものが選択されます。なお、「ユーザ」および「パスワード」欄の入力を省略した場合、認証なしの SMTP で送信されます。

6.3 アラームルール名・アクション名

アラームルール名、及びアクション名には日本語は使えません。

また、アラームルール名に空白を使用することはできません。(例: 「test rule」)

6.4 プログラム実行

アクションの割り当ての「プログラム実行」で利用できるコマンドは CUI コマンドに限られます。

7 サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー)

▶ Windows/Linux 共通

7.1 非サポート項目

機種によってサポートされない表示項目があります。サポートされない表示項目は「N/A」などと表示されます。

7.2 アーカイブデータの取得・出力

シングルシステムビューにおいて、サーバのアーカイブデータを取得及び出力することができます。

アーカイブの取得にかかる時間はサーバによって異なります。サーバによって 1 分以上かかる場合があります。

7.3 電源投入要因／電源切断要因

電源投入要因／電源切断要因はサーバ本体が保持している要因が表示されます。SVOM や Agents

が保持しているものではありません。

7.4 ファン回転率

ファンの回転率はリアルタイムに値が変化するものではなく、ファンテストが行われるまでこの値は変化しません。ファンテストは、サーバ起動時、およびリモートマネジメントコントローラで設定された時刻に行われます。

7.5 ASR&R の設定

ASR&R の設定内容は、SVOM/Agents には保持されません。サーバ本体の BIOS/BMC(RSB/iRMC)に格納されます。

7.6 ASR&R 画面

V5.00 以降において、シングルシステムビューの「ASR&R」画面では、既に設定されている情報の参照のみが可能です。設定内容を変更する場合は、[管理者設定]－[サーバの設定]で実施してください。

8 MIB インテグレータ

▶ Windows/Linux 共通

8.1 ネットワーク機器からのトラップ

ネットワーク機器の MIB ファイルを登録することによって、その機器から送られたトラップの表示および、受信したトラップに対する動作の設定を行うことができます。

尚、あらかじめ対象のネットワーク機器をサーバリストに登録しておく必要があります。登録する際、サーバの種類は「Other」とします。

8.2 トラップの記述形式

MIB に定義される Trap の記述形式は、SMIv1 形式のフォーマット (TRAP-TYPE) である必要があります。

(例) テストトラップの TRAP-TYPE

```
testTrap TRAP-TYPE
ENTERPRISE sniServerMgmt
VARIABLES {
trapServerName,
trapTime
}
DESCRIPTION
""Test trap to verify trap connection.""
--#TYPE ""Test trap""
--#SUMMARY ""Test trap from server %s (no error).""
--#ARGUMENTS { 0 }
--#SEVERITY INFORMATIONAL
--#TIMEINDEX 1
--#HELP ""Note: This is no error condition.""
--#HELPTAG
--#STATE OPERATIONAL
::= 600
```

8.3 日本語表記を含む MIB ファイル

日本語表記を含む MIB ファイルは未サポートです。

8.4 MIB ファイルの拡張子

登録する MIB のファイル拡張子は「.mib」である必要があります。

8.5 登録した MIB ファイルの削除

登録された MIB ファイルを削除することは未サポートです。

8.6 登録した MIB ファイルの更新

既に登録済みの MIB ファイルを TRAP 追加等の理由により置き換える場合には、登録済みの MIB ファイルと同じ名前で再度登録を行ってください。

その際に、ファイル名 (拡張子を含む) の大文字と小文字の違いに注意してください。誤って登録した場合は、新規の MIB として登録されます。

9 パワーモニタ

▶ Windows/Linux 共通

9.1 電力表示対象サーバ

画面左のツリーには監視対象サーバの中で、パワーモニタ機能をサポートするサーバのみが表示され

ます。

9.2 複数サーバの表示

画面左のツリーから監視対象サーバを複数選択して、同時に電力消費状態を参照することができます。

10 その他

▶ Windows/Linux 共通

10.1 SVOM がアクセスするネットワークポート

SVOM は SVOM のサーバブラウザ画面において、サーバを検索する際に、サーバブラウザ画面で指定したサブネット内のサーバに対して、以下のネットワークポートへアクセスを行います。

80, 135, 161, 443, 623, 3172, 5988, 5989, 9363, 16509, 16514

同じくサーバブラウザ画面で、サーバを登録する際には登録するサーバの上記ネットワークポートにアクセスを行います。またサーバを登録後は、登録されたサーバに対して、上記ネットワークポートにアクセスを行います。

SVOM は、ネットワークポートが共有されていても問題が起きない構造としておりますが、指定したサブネット内、及び SVOM に登録したサーバで上記ネットワークポートへのアクセスを占有したい等の理由で不都合がある場合には、不都合のあるプロダクト側でポートを移動するなどの対処を行ってください。

※サーバの種類や OS によって、上記のアクセスが行われない場合があります。

10.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作

インストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 の場合)もしくは「プログラムと機能」(Windows 2008 の場合)で、「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。修正インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。尚、ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービスとして、ServerView Operations Manager に同梱の OpenDS(デフォルト)を使用していた場合、修正インストールの「ディレクトリサーバの選択」ダイアログでは、「OpenDS をインストールする」を再度選択してください。使用するディレクトリサービスを変更する場合にのみ「既存のディレクトリサービスを使用する」を選択してください。

Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/ServerView/Tools/ChangeComputerDetails.sh
```

変更後の設定を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って入力を行ってください。

また、サーバリストに変更前のサーバ名や IP アドレスが監視対象として残ったままとなる場合があります。その場合、SVOM が変更前の IP アドレスへアクセスし続けることになりますので、次の方法で変更前のサーバ名及び IP アドレスの監視エントリを削除してください。

1. サーバリストより削除対象のサーバ名を選択し、右クリックします。
2. メニューから「削除」をクリックします。

10.3 SVOM サービス停止中の注意

バックアップなどの採取により SVOM 関連のサービスを停止している間は、サーバの監視やトラップの受領などが行われません。

10.4 関連ファイルの編集

SVOM/Agents 関連ファイルの編集、追加、削除などは、動作に影響を及ぼす可能性がありますので、マニュアルに記載されている内容以外は一切行わないでください。

▶ Windows

10.5 JRE のアップデート

JRE(Java Runtime Environment)をアップデートする場合、ServerView Operations Manager の以下のサービスを停止してから、JRE のアップデートを行ってください。

以下に記載の順番に、サービスを停止してください：

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください：

1. ServerView JBoss Application Server 5.1
2. ServerView Services
3. ServerView Download Service

10.6 Network Node Manager との連携

ServerView Suite DVD V10.10.07 以降より、NNM(Network Node Manager)連携モジュールの提供は行っていない。

以降のバージョンにてトラップ連携を行う場合には、利用者作業にてメッセージ変換ファイルの修正/作成を行ってください。

参考資料情報

『HP OpenView ネットワークノードマネージャ ネットワーク管理ガイド』

『HP OpenView ネットワークノードマネージャ 登録ファイルガイド』

『NNM リファレンスページ』の trapd.conf 項目

ServerView の MIB は、ServerView Suite DVD に格納されている下記 MIB パッケージより入手可能です。

¥SVSSoftware¥Software¥ServerView¥MIBs¥

10.7 イベントログのソース名

SVOM が OS のイベントログにログを記録する際のソース名は「ServerView Services」です。ログの種類は全て「アプリケーション」です。

10.8 システムバックアップ

SVOM は常時ファイルの書き換えやデータベースへのアクセスを行っています。システムバックアップ時には、必要に応じて以下の順に SVOM のサービスを停止してください。

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1
4. ServerView Remote Connector
5. SQL Server (SQLSERVERVIEW)

または

MSSQL\$SQLSERVERVIEW

※起動は上記と逆順で行います。

10.9 ディレクトリサービスを変更する場合の操作

Active Directory サーバを変更する場合など、使用するディレクトリサービスを変更する場合は、「10.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作」と同様の操作を行い、『ディレクトリサーバの選択』ダイアログでディレクトリサービスの設定を変更してください。

▶ Linux

10.10 cron に登録されるジョブ

定期的にデータのバックアップを行うため次のジョブが cron に登録されます。

ジョブ説明:

Weekly 1 週間(曜日、時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースをバックアップします。

Daily 1 日(時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースの差分をバックアップします。

これらのジョブを、cron から削除したり、無効にしたりしないでください。動作時刻はシステムの稼働状況に依存します。詳しくは、cron の仕様を確認してください。

バックアップデータは、次のディレクトリ配下に格納されます。

/var/fujitsu/ServerViewSuite/ServerViewDB/backup

10.11 シスログのソース名

SVOM がシスログ (/var/log/messages) にログを格納する際の、ログの先頭文字列は「ServerView Services:」です。

10.12 snmptrapd の起動

snmptrapd が起動していない場合、SVOM によってオプション無し状態で snmptrapd が起動されます。

この場合、OS から起動させた場合とは、ログ形式及びプライオリティが異なります。

10.13 追加されるユーザ/グループ

SVOM をインストールすると、ユーザ: svuser, postgpls、グループ: svgroup, postgpls が作成されます。

これらユーザ/グループのユーザ ID、グループ ID、ログインシェル、ホームディレクトリなどの変更は、動作に影響を及ぼすので、一切行わないでください。

11 トラブルシューティング

▶ Windows/Linux 共通

11.1 接続テストが正常とならない

- すべての項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
PING の通信ができていません。	LAN が接続されていない、または LAN の接続経路が確立されていない場合があります。	PING が通りますか？ PING を有効にしてください。PING の応答がない場合、接続テストは実行されません。PING が通るように LAN 環境を見直してください。
	対象のサーバがファイアウォールで通信遮断されている場合があります。	

- 「SNMP」の項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
SNMP サービスから応答があり	ファイアウォールなどで SNMP(ポート 161/162)通信が	ファイアウォールの設定を確認し

ません。	遮断されていませんか？	てください。
	SNMP Service サービスは起動していますか？	SNMP Service サービスを起動してください。
	SNMP Service サービスの設定で管理サーバの IP からの書き込みが抑止されていませんか？	SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)を確認してください。

● 「ノードタイプ」の項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
ServerView Agents から応答がありません。	ServerView Agents がインストールされていますか？	ServerView Agents をインストールしてください。
	ServerView Agents のサービス(ServerView Server Control サービス、eecd サービス)が起動していますか？	ServerView Agents のサービスが停止している場合は起動してください。 ServerView Agents のサービスが起動している場合は、再起動してください。

● 「テストトラップ」の項目が正常にならない場合

テストトラップを受けていないのか、受けているが正常にならないのか確認をしてください。

状況	原因	対処
トラップを受けていません。	管理サーバからトラップを受け付ける設定になっていますか？	管理サーバ側の SNMP Trap サービスが起動しているか確認してください。 SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)を確認してください。

	対象サーバのトラップ送信先は あっていますか？	対象サーバ側の SNMP の設定 (SNMP Service サービスのプロ パティ、snmpd.conf)で送信先 を確認してください。
--	----------------------------	--

11.2 サーバが管理不可能と表示される

サーバが管理不可能と表示された場合は、次の項目を確認してください。

● ネットワーク環境の確認項目

- ・ LAN ケーブルが正しく接続されていますか？ LAN ケーブルを正しく接続してください。
- ・ ネットワーク機器(ルータ、HUB など)は正常に動作していますか？ ネットワーク機器を確認してください。
- ・ 「監視対象サーバ」←→「SVOM をインストールしたサーバ」間のネットワーク機器において、SNMP プロトコルの通信ポート(udp 161 番、及び udp 162 番)が遮断されていませんか？ 遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。

● SVOM をインストールしたサーバの確認項目

- ・ 監視対象サーバに対して、ping が通りますか？ ping が通らない場合、ネットワーク周りの設定を確認してください。
- ・ 監視対象サーバの IP アドレスは正しいですか？ 監視対象サーバの IP アドレスを確認し、正しい IP アドレスを設定してください。
- ・ 監視対象サーバで設定されている SNMP Service サービスのコミュニティが、「サーバのプロパティ」→「ネットワーク/SNMP」タブ→「コミュニティ名」に設定されていますか？ コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- ・ ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、「管理不可能」アイコンが表示される場合があります。この場合は、次の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更することで、負荷を低減し、タイムアウト値の延長を行うことができます。
 1. 「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」→「ネットワーク/SNMP」タブの順にクリックします。
 2. 環境に合わせて設定値を変更します。

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとに、システムの情報をサーバに要求します。(デフォルト 60 秒)
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です。(デフォルト 5 秒)
更新間隔	表示内容を更新する間隔です。(デフォルト 60 秒)

-
- これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。
 - タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまいます。大きすぎる値(12 秒以上)は設定しないようにしてください。

- 監視対象サーバ(Windows)の確認項目

- ・ ファイアウォールにより、ICMP(PING)またはSNMP ポート(udp 161 番)が遮断されていませんか？遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ・ **ServerView Agents** がインストールされていますか？インストールされていない場合は、インストールしてください。
- ・ **SVOM** で、「サーバのプロパティ」に設定した **SNMP** コミュニティ名が、「**SNMP Service**」のプロパティに設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性があります。不要な空白は削除してください。
- ・ **ServerView Agents**(**SNMP Service** サービス、**ServerView Server Control** サービス)が起動していますか？起動していない場合、起動してください。
- ・ **ServerView Agents**(**SNMP Service** サービス、**ServerView Server Control** サービス)が正常動作していない可能性があります。**ServerView Agents** を再起動してください。再起動しても、解決しない場合は、**ServerView Agents** を再インストールしてください。
- ・ **SNMP** を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。他製品の **SNMP** を無効化してください。

- 監視対象サーバ(Linux)の確認項目

- ・ ファイアウォールにより、ICMP(PING)またはSNMP ポート(udp 161 番)が遮断されていませんか？遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。なお、OS 標準のファイアウォール(パケットフィルタ)としては、**iptables**、**tcpwrapper**(**/etc/hosts.deny**、**/etc/hosts.allow**)などがあります。
- ・ **ServerView Agents** がインストールされていますか？インストールされていない場合は、インストールしてください。
- ・ **SVOM** で、「サーバのプロパティ」に設定した **SNMP** コミュニティ名が、**snmpd.conf** に設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- ・ **ServerView Agents**(**snmpd**、**eeecd**、**srvmagt**、**srvmagt_scs**)が起動していますか？起動してい

ない場合、起動してください。

- ServerView Agents(snmpd, eecd, srvmagt, srvmagt_scs)が正常動作していない可能性があります。ServerView Agents を再起動してください。再起動しても、解決しない場合は、ServerView Agents を再インストールしてください。
- SNMP を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。他製品のSNMP を無効化してください。
- snmpd.conf の中に「com2sec svSec localhost <SNMP コミュニティ名>」行がない可能性があります。この行がない場合は追加してください。

11.3 HTTP 500 や HTTP 404 のエラーが表示される

- Java Runtime Environment(JRE)がインストールされていることを確認してください。
- SVOM が使用するネットワークポートが他のプログラムによって占有されていないか確認してください。

SVOM が使用するネットワークポートは、マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows」(sv-install-windows-jp.pdf)、もしくは「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Linux」(sv-install-linux-jp.pdf)を参照してください。(マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります)

- SVOM をインストールしたサーバの名前解決ができることを確認してください。
サーバ側 (SVOM をインストールするサーバ)と、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM にアクセスする端末)の両方で、名前解決ができるように設定されている必要があります。
以下のコマンドを実行して、正常に名前解決が行われていることを確認します。

Windows の場合

tracert <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス >

Linux の場合

traceroute <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス >

- インストール時にファイルが正しくコピーされなかった可能性があります。
一旦アンインストールして、インストール先のフォルダ内のファイル・フォルダを全て削除した後、再度インストールを行ってください。
- SVOM と同じサーバに「Interstage Application Server(IAS)」がインストールされていた場合、以下を行ってください。尚、SVOM を上位のバージョンへのアップデートを行ったり、同一バージョンにおいて変更インストールを行うと、以下で編集したファイルが書き換えられて編集前の状態に戻ります。アップデートや変更インストールを行った場合、再度以下の編集を行ってください。

<ファイル>

<SVOM インストールフォルダ>\¥ServerView Suite¥jboss¥bin
run.conf.bat

例) ・32 ビット版 Windows OS の場合

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\jboss\bin
・64 ビット版 Windows OS の場合
C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\jboss\bin

<変更箇所>

- SVOM のバージョンが V5.30 以前の場合
rem set "JAVA_HOME=C:\opt\jdk1.6.0_13"

この行のコメントアウトをはずして、正しい JRE 1.6 のパスを設定してください。

- SVOM のバージョンが V5.50 以降の場合
以下のように 1 行追加します。

```
for /f "usebackq delims=" %%i in  
("%JBASS_HOME%\server\serverview\bin\getjavahome.exe") do set  
JAVA_HOME=%%i  
set "JAVA_HOME=C:\opt\jdk1.6.0_13" ←★この 1 行を追加します
```

「JAVA_HOME=」の後に、正しい JRE 1.6 のパスを設定してください。
追加する行は、上記「for /f "usebackq delims=～」の行の後に記載する必要があります。

また、JRE をアップデートした場合、JRE のパスが変更され、Web サーバが起動できなくなる場合がありますので、その都度、JRE のパスを確認し、変更されていれば書き換えてください。

例) ・32 ビット版 Windows OS の場合

```
set "JAVA_HOME=C:\Program Files\Java\jre6"
```

・64 ビット版 Windows OS の場合

```
set "JAVA_HOME=C:\Program Files (x86)\Java\jre6"
```

ファイル編集後、以下の順に SVOM のサービスを再起動してください。

サービスを停止する:

1. ServerView Download Services
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1

サービスを開始する:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1
2. ServerView Services
3. ServerView Download Services

11.4 SVOM の画面読み込みに時間が掛かる。

Web ブラウザや、JRE の一時ファイル(キャッシュ)に不要なデータが格納されている可能性があります。以下の一時ファイルを削除してください。

- ・Web ブラウザのインターネット一時ファイル

Internet Explorer の場合：

[ツール]－[インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

FireFox の場合：

[ツール]－[オプション]を起動し、「詳細」を選択、「ネットワーク」タブの「キャッシュされた Web ページ」項目にある「今すぐ消去」を実行してください。

- ・JRE のインターネット一時ファイル

Java コントロールパネルを起動し、インターネット一時ファイルの「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

11.5 SVOM から監視対象サーバにログイン出来ない

SVOM から監視対象のサーバへ設定を行う際、Agents 側サーバの設定によりユーザ ID、パスワードの要求が行われます。この際、ログインが正常に行われずエラーが表示される場合や、再度ログインが要求される場合があります。以下の確認を行ってください。

- ログインに使用するユーザ ID、パスワードを確認してください

入力するユーザ ID、パスワードはサーバの OS で作成、許可されている必要があります。サーバの OS 上、または監視対象サーバが利用可能なディレクトリサービス上でユーザ ID、およびパスワードの作成を行ってください。

- ログインに使用するユーザ ID が管理グループに属しているか確認してください

Agents の設定によっては、ユーザ ID は管理グループに属している必要があります。グループの有効設定、およびユーザ ID がそのグループに属している事を確認してください。

以下の Agents ツール、設定ファイルで確認出来ます。

Windows：

Agents Configuration ツール (デフォルトは"FUJITSU SVUSER"グループが設定)

Linux：

/etc/srvmagt/config 設定ファイル(デフォルトは"SVUSER"グループが設定)

- JRE の版数を確認してください

SVOM で使用している JRE バージョンを確認してください。

バージョン 1.6.0_29 では、ログインの制御が正常に動作しない場合があります。1.6.0_29 以外のバージョンを使用してください。

- Agents バージョンを確認してください

ServerView Agents for Windows V5.50 には、正常にログイン出来ない問題があります。

以下の対処を行ってください。

- ① Agents Configuration ツールを起動し、「セキュリティ設定」タブに移動する。
- ② "パスワードによる保護を有効にする"のチェックを外す。
- ③ 「適用」ボタンをクリックする。

※設定以降、パスワードによる保護は行われません。

▶ Windows

11.6 SVOM インストールフォルダ配下のファイル「ServerViewdb_log.LDF」のサイズが非常に大きい
以下の対処を行います。

- ① 以下のページから、「ServerView Console / Operations Manager for Windows 用データベース
ログ肥大化対処ツール」をダウンロードします。
http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviadownload.cgi?DRIVER_NUM=F1011993
- ② ダウンロードファイルは自己解凍形式で圧縮されています。ダウンロードファイルを任意のフォルダで
実行して解凍します。
- ③ 以下フォルダ内の「FNS-17709-xx.txt」に従って対処を行います。
<解凍フォルダ>¥Tools¥FNS-17709

以上